

# 県中教研 英語部報

発行所 ●福島県中学校教育研究会英語専門部  
責任者 ●川名 健一  
発行 ●令和5年3月3日

## 内 容

県英語専門部長及び県教育庁義務教育課指導主事あいさつ	1
令和4年度事業報告	1
令和4年度の研究の振り返り	2
令和5年度～令和6年度の研究の方向性	3
令和5年度事業計画	4

## 部 長 あ い さ つ



福島県中学校教育研究会英語専門部長 川名 健一

コロナ禍となって3年目を迎えた令和4年度。過去2年間停止、または制限を余儀なくされていた県中教研英語専門部の活動がようやく前進する兆しが見えた1年でした。中でも、県内各地から42名の中学生コンテストが集い、一部有観客で実施した第71回県下中学校英語弁論大会、そして集人対面とオンラインの併用（いわゆるハイブリッド方式）により活発な意見交換を行った県中教研研究協議会会津大会の成功はすべての英語専門部員に希望と勇気を与えるものでした。中心となって運営を担っていただいた田村支部、会津地区の先生方に衷心より感謝申し上げます。

令和5年度は「情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫」を副主題として、「アフターコロナ」にふさわしい英語の授業の姿を追究していきたいと思っております。引き続き共通理解に立った研究にご協力願います。

## 英語教育の変革に挑戦



福島県教育庁義務教育課 指導主事 松本 涼一

本年度開催された福島県中学校教育研究協議会会津大会英語部会では、研究テーマのもと、県内各地で取り組んでいる、主題に迫る実践が報告されました。

予測が困難な世の中といわれる昨今、生徒の未来を保証する授業を行うためには、私たち教員がこれまでに培ってきた授業観や指導観を問い直し、新たな教育へと根本的に変革する必要があります。Can-Do リスト形式による学習到達目標の設定もその一つです。到達させたい生徒の姿をイメージし、それを生徒と共有することで学習者中心の学びが展開されます。目指すゴールは一つであっても、学習方法や指導方法など

到達点に向かうルートは様々であり、多様な学び方や授業スタイルが生まれます。子どもたちの未来のために、生徒と教師双方の良さが輝く授業を目指し、勇気を持って変革に挑戦していきましょう。

## 2022年度事業報告

### 【 主要事業実施一覧 】

- 英語専門部総会 5月19日（木） パルセいいざか
- 主題研修会 5月19日（木）（英語専門部長会総会後に開催）
- 主題研修報告会 5月下旬 各支部
- 支部研究協議会 7月下旬 各支部
- 第1回ワークブック編集会議 8月4日（水） 郡山市こども総合支援センター
- 第71回県下中学校英語弁論大会 9月9日（金） 田村市文化センター
- 県中学校教育研究協議会会津大会 10月6日（木） 会津美里町立高田中学校
- 第70回東北六県中学校英語暗唱大会 11月2日（水） マリオス盛岡市民文化ホール
- 高円宮杯第74回全日本中学校英語弁論大会 11月18日（金）
- 定例支部長会 12月15日（木）（Zoomによる開催）

# 令和4年度の研究の振り返りと令和5年度の研究の方向性

## 1 研究主題（令和4年度～令和6年度）及び各年度の副主題

(1) **研究主題** 社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。

### (2) 副主題

令和4年度 ●見方・考え方が働く言語活動（目的や場面、状況等）の工夫

令和5年度 ●情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程の工夫

令和6年度 ●言語活動（指導）と評価の一体化のための工夫

### 副主題の系統性（3カ年の研究の流れ）

本研究主題の追究は学習指導要領が目標とする資質・能力の育成を実現するための研究となる。社会や世界の出来事や他者とのつながりを生徒に捉えさせるための明確な目的や場面、状況等を設定した言語活動の追究を通して、教師は、見方・考え方についての理解を深める。見方・考え方が働く場面設定（学習課題）において、生徒にどのような知識・技能を、どのように思考・判断・表現させていくのか。実践の積み重ねから、学習指導要領が示す資質・能力の実現を目指す。目指すべき方向と方法を追究するなかで、目の前にいる生徒の実態を積極的に評価し、指導を改善していくことが、社会や世界に目を向け、相手との関わりを大切にしながら主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を実現していくと考える。

（令和3年度 『副主題の系統性（3カ年の研究の流れ）』より）

## 2 令和4年度の研究の振り返り

研究1年目は、「授業者である教師が、見方・考え方についての理解を深める」ことが研究の成果を評価するひとつの指標となる。本年度の研究協議会は一部参集型とオンラインによる参加を組み合わせたハイブリッド開催となった。

### (1) 公開授業より

#### ①第1分科会（第1学年：Grammar for Communication3）

場面設定を①身近な話題である「学校生活」について紹介し、ALTからの質問に答える場面と②相手の自己紹介から得られた情報をもとに、さらに聞きたいことを質問する場面とした。ALTとインタラクティブを行いながら既習の疑問詞を活用して会話を継続・発展させることをねらいとした。

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や場面、状況を明確に設定し、学びへの動機付けを意識して指導にあたることで、生徒は活動に見通しをもった。</li> <li>○ALTや身近な人との言語活動を設定することで、生徒は課題を自分事として捉え、興味をもって取り組むことができる。</li> <li>○Google Meet など、ICT機器を活用することで、海外の人々やこれから出会うALTなどとオンラインでのやり取りができる。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校の紹介文が事前に準備したものであり、英文の再生がメインになってしまった。</li> <li>●中間指導としてのALTからのフィードバックが表情や声の大きさに限定され、言語面でのアドバイスが少なかった。</li> </ul>

#### ②第3分科会（3学年：Unit4 Be Prepared and Work Together）

場面設定を「修学旅行でのルールやスケジュールを確認し、ALTへ東京の街についてクイズを作成する。」とした。間接疑問文を用いながら、翌週の修学旅行について英語でスケジュールやルールの確認をすることがねらいであった。

成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒がこれから実施する修学旅行や元ALTからのビデオメッセージなどを用いて生徒の興味・関心を高めることができた。</li> <li>○ALTからのメッセージに興味を持った生徒たちは、東京や会津に関するクイズの作成に意欲的に取り組み、間接疑問文の内容や用法などについて、いろいろと考えながら学習することができた。</li> <li>○指導後の定期テストなどで正答率が高く、活用を意識した言語活動生徒の理解を深め、よい影響を与えることがわかった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語での指示が多すぎ、指示が必要であったかどうか検討が必要であった。</li> </ul>

研究協議では、授業のゴールの姿から逆算して単元計画を立て、複数回の言語活動を通してゴールへ向けたアプローチを行っていく指導過程への転換が求められていることや、すぐに答えを求めてしまう生徒

の姿、「できない＝きれい」に直結してしまう生徒の姿なども話題になり、実際の指導の中で直面するような課題が率直に述べられた。

## (2) 各分科会発表より

### ①各支部の実践から見られた『見方・考え方が働く言語活動にせまるための工夫』

<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確な目的や場面、状況を設定する</li> <li>・共有、振り返る場の設定</li> <li>・ICTの活用（Zoomを活用した交流）</li> <li>・ALTなど生徒に身近な人材の活用</li> <li>・地域や学校の行事など、生徒に身近な話題の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教科書とのつながりを生かした活動</li> <li>・教科書題材を生かした活動</li> <li>・コミュニケーションの見通しをもたせる指導</li> </ul>
---	---

### ②学年毎・単元毎の言語活動一覧

研究協議会会津大会で各支部より報告された実践事例をもとに、授業課題（目的や場面、状況の設定）を学年毎・単元毎に一覧とした。

	例)	各支部から報告された言語活動の実践事例		
		1 学年		
		学年	単元	目的・場面・状況
		1	Unit2	You will write an English article about your classmate. (ALT に伝える)
	1	Unit2	新任の ALT に校舎案内をする。	
	1	Unit3	外国の友達に、部活動について紹介するためのビデオを作成する。そのため	

### ③実践で出てきた課題や課題と思われる事象

<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表で、生徒が事前に原稿を書いて読み上げたり、暗記したものを発表（再生）したりしてしまう。</li> <li>・生徒の発表に対する教師のフィードバックが内容面のアドバイスが多く、言語面が少なくなってしまう。</li> <li>・言語活動の説明や指示で教師の発言が多くなってしまい、生徒の活動時間が短くなってしまう。</li> <li>・ペア活動や即興での発表のとき、生徒が表現したいことを英語にするのに時間がかかる。</li> <li>・生徒が正しい英語表現を使うことができないときがある。</li> <li>・練習と言語活動のバランスが難しい。</li> <li>・4技能のバランスがとりづらい。</li> <li>・生徒が翻訳アプリに頼りすぎてしまう。</li> <li>・身近で実践的な場面設定が難しい。</li> <li>・振り返りの時間を確保することが難しい。</li> </ul>
--

## 3 令和5年度以降の研究の方向性について

研究1年目を通して見えてきた言語活動の在り方、方向性を確かなものにし、より教育効果を上げるためにはどのような指導過程を構成していけばよいか。研究2年目は「情報や自分の考えなどを形成・再構築し、伝え合うための指導過程」を副主題とする。1年目は「目指すべき方向」の探究であったが、2年目は「実現すべき方法」の探究であると言える。目標とする言語活動の追究と実践に伴って見えてきた課題をどのように解決するか。「学校の紹介文がすべて事前に準備したものであり、英文の再生がメインとなってしまふ」、「中間指導でのフィードバックが表情や声の大きさのみで言語面への指導が少ない」、「教師による英語での指示が多くなる」などに焦点があたることとなる。生徒が課題の解決に向けて考えや気持ちを伝え合う言語活動を大切にしながら、生徒の英語力をどう向上させるか。中間指導や振り返りの充実を図り、『ふくしま・イングリッシュ・コンパス』を参考にするなど、学習指導要領に沿った授業実践により、「福島県ならではの」より具体的に実践的な指導方法の探究を目指す。

学習過程の例（『ふくしま・イングリッシュ・コンパス』〔令和2年1月福島県教育委員会発行〕を参考に）

<p>4 主な活動</p> <p>目的、場面、状況を重視し</p> <p>実際のコミュニケーションの流れの中で</p> <p>伝え合う内容を大切に</p>	理解・練習	組み合わせる等	言語活動	生徒の姿
	(1) モデル提示 (教師の見本)		(1) 言語活動① (目的・場面・状況)	こんな目的・場面・状況、どのような英語を使えば？1回目は間違っただけで、楽しかった。
	(2) 繰り返し練習① (リピート)		(2) 振り返り① (共有・気付き・改善)	みんなの発表や先生の英語を参考に、気づいたぞ。
	(3) 繰り返し練習② (単語を替えて)		(3) 言語活動② (目的・場面・状況)	やった！正しい英語でできた。
	(4) 会話練習 (コミュニケーション)		(4) 振り返り② (共有・価値付・整理)	さっき気付いたことはこういうことだったのか。

# 2023年度事業計画

● 英語専門部総会	5月11日(木)	福島市
● 主題研修会	5月11日(木)	英語専門部長会総会後に開催
● 主題研修報告会	5月 下旬	各支部
● 支部研究協議会	7月 下旬	各支部
● 第1回ワークブック編集会議	8月 月上旬	開催場所・方法検討中
● 第72回県下中学校英語弁論大会	9月14日(木)	会津若松市文化センター
● 県中教研研究協議会いわき大会	10月 5日(木)	いわき市立平第二中学校
● 東北六県英語教育研究大会	11月 1日(火)	青森県八戸市
● 東北六県中学校英語暗唱大会	11月 2日(水)	青森県八戸市
● 定例支部長会	12月 月上旬	福島市
● 英語部報作成	2月 下旬	

## ● 分担一覧 ●

### (1) 主題研修会(会場準備・司会・記録の支部分担)

係/年度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
会場準備	両 沼	南会津	福 島	郡 山	田 村	両 沼	いわき
司 会	相 馬	いわき	伊 達	岩 瀬	北会津	相 双	安 達
記 録	双 葉	安 達	石 川	東西しらかわ	耶 麻	南会津	福 島

### (2) 県下中学校英語弁論大会(開催地)

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
開催地区	県 中 (田 村)	会 津 (未 定)	県 南 (未 定)	県 北 (未 定)	浜 (未 定)	県 中 (未 定)	会 津 (未 定)

### (3) 県中教研研究協議会(開催地および分科会の発表支部)

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年	
開催地	会 津 (高田中)	浜 (平二中)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	検討中 (未 定)	
分科会	1年	南会津 東西しらかわ	田 村 北会津	安達 いわき	石 川 両 沼	耶 麻 福 島	岩 瀬 伊 達	
	2年	福 島 耶 麻	岩 瀬 伊 達	両 沼 郡 山	南会津 岩 瀬	田 村 相 双	安 達 東西しらかわ	石 川 相 双
	3年	北会津 両 沼	石 川 相 双	耶 麻 福 島	伊 達 東西しらかわ	郡 山 北会津	南会津 いわき	田 村 北会津

### (4) 東北大会への参加, 発表割り当て(都合により, 令和4年度と令和5年度の割り当てを変更した)

年 度	令4年	令5年	令6年	令7年	令8年	令9年	令10年
	(岩手県)	(青森県)	(福島県)	(宮城県)	(秋田県)	(岩手県)	(青森県)
ブロック	県中・県南 会 津	会 津 県中・県南	いわき	県 北	相 双	県中・県南	会 津

※令和5年度より相馬と双葉が統合し「相双支部」に。それに伴い, ローテーションも一部変更。